

# 令和3年度 第1回高梁市医療計画検討委員会議事概要

日 時：令和3年5月24日（月）19：00～20：30

場 所：ZoomによるWEB開催

出席者：委員14名、アドバイザー1名、事務局5名

## 1 開 会

河村会長あいさつ

- ・GW明けから完全在宅、クラブ活動禁止とするなど大学においても、新型コロナの感染防止対策を行ってきているところである。
- ・市民の中で、感染が拡大しているような噂話がでているようであるが、そういったことはない。

## 2 報 告

### （1）令和2年度の成果について

－資料1により事務局から説明－

- ・委員からの補足、意見なし

### （2）看護師確保について

－資料2により事務局から説明－

仲田副会長：市の看護師の奨学金については1名申し出があったということであるが、病院の実施する奨学金について、高梁中央病院での就職を希望する学生から申し込みの手続きについて相談があったので、病院の今後のスケジュールについて教えてほしい。

戸田委員：明日、今後の手続き等について、病院から学生さんへご連絡します。

## 3 協 議

### （1）令和3年度の事業について

－資料3により事務局から説明－

仲田副会長：取組項目の方向性については問題ない。その中で、職住近接支援については、可能な範囲でどんどん進めていただきたい。各病院の周辺に医療従事者の方々が、安くていい家を持ち住むことができれば、災害時に強い病院になる。以前の水害では、国道が寸断され、誰も病院に来られず同じ当直の方々が2晩を過ごすということがあった。これは定住施策として市の大きな方向性にも合致していることでもある。

特に、病院の多くは街中にあり周辺のまちづくりに関わることから、様々な視点からも病院で働く方が周辺に住むことはメリットがあるので、取り組みを進めてほしい。

藤澤委員：医療計画を作ることによって、高梁市の現状認識や課題についてみなさんと共有でき、今回のコロナワクチン接種等でも医療機関の現場で大きな効果を発揮していると感じている。

職住近接については、委員がおっしゃられるように、高梁市の大きな課題であり、定住人口の増加、高齢化・過疎化からの脱却は大きな柱となっている。医療従事者の方に限らず、特に地域の方の安心安全のためには、医療従事者の確保は最も重要な課題だと認識している。市の方向性とも合致していますので、いろいろな意見をいただきながら、実効性のある現場にあった対策に取り組んでいきたいと考えている。

浜田アドバイザー：仲田先生からもあったように、まちづくりにつなげることが大事。医療計画でも、地域包括ケアとして医療と介護ができるだけ連携していかなければならないとしている。医療人材不足への対策以外にも、ホームヘルパー、介護福祉士のような介護人材の不足について、市はどのように認識し対策を行っているか。

事務局：高梁市でも介護の人材確保も同様に難しくなっている。介護人材では、介護福祉士について養成奨学金を令和2年度から看護師と同じスキームで実施し、外国人・日本人それぞれ養成する事業所に対して60万、30万の補助金制度を実施している。令和2年度は4名が利用し、令和3年度は約8名が利用する予定となっている。

介護支援専門員については、試験が通らないとのことから、本日山根委員がご出席いただいておりますが、介護支援専門員協会にご協力いただき、試験対策として6～9月に集中講座を行う予定です。

ホームヘルパーについては、なかなか養成が難しいので、ボランティアの養成講座を包括を中心に組み込む予定としております。

藤井委員：看護師の離職者へのPRについては、看護協会のナースセンターに登録してそれぞれの病院で求人をかけている。長期間離職されている方については、看護協会から復帰を希望する方へ再教育を実施しているところだ。

今年度は4病院の見学会が中止になったが、学生さんの中には見学会を通して病院を決めたい、奨学金を考えたいという方がいると聞いている。見学会ができるようになれば、実施したいと思っています。

藤澤委員：コロナの状況が落ち着いたタイミングで今年度良い時期に実施したいと考えているので、その際にはお願いいたします。

仲田副会長：介護福祉士については、高校新卒だけでなく自分の将来について考えている社会人の方へアピールし、順正に入学、市内就職につなげるようにすることはできないでしょうか。

事務局：社会人の方で介護の分野に興味を持たれている方については、相談や今後の資格取得をとるためのスケジュールを、広くアピールしていきたいと思っております。

則安委員：地域で医療・介護人材を確保するためには、医師は特殊で仕事のために引っ越しもいとわれないといった面があるかと思いますが、看護・介護職の方については生活と働く場所は近いところが良いと思っています。高梁市は大学もあり若い方が市内に来る流れもありますので、若い方と地域の方が交流する場での人とのふれあいが地域の魅力に直結すると思う。奨学金も魅力の一つであるが、実習や部活動をしている学生、奨学金がらみでもいいが医療関係機関、介護関係機関の若い方が、地域に根付くために住民や地域の方

が交流する仕掛けづくりをすることで、地域の魅力に気づき定着・定住につながる。地域の住みやすさは、気候・風景もあるが人だと思うので、地域での結びつき、つながり、交流を幅広い視点でしかけていくことが大切。政策は難しいが、地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築はまちづくりそのものにつながるので、縦割りではなく人と人とのつながりの中で、若い方が職を選択、定住することができればよいのではないかと。

石田委員：看護師や介護職の確保状況は、減少・不足していく数を補っているか。

また、各現場で感染症対策をしていただいているところであるが、大変だという声を聞いている。こういう大変な時に介護医療職の方が誇りを持って働ける状況ができなければいけない。高梁市では手当・待遇・人材確保の面、この緊急時でどういう対応できているかをPRできないと、若い方がずっと目を向けていただけるか心配である。

事務局：市内4病院にかぎってであれば、看護師の退職者に対する新卒者の補充は令和2年度では上回っている。また、令和元年度についても同様である。

河村会長：報道では国はコロナ対策として自治体には十分な予算措置をしていると聞いている一方、病院へはあまりその予算が回ってきていないという話もある。戸田委員からも手当等の話もあったが、市としては何か考えているものがあるのか。

藤澤委員：昨年度は、コロナに対する給付金もいただいているところであり、国の支援はすべて使わせていただいている。令和3年度にも同様の措置はあり、当初予算で対応できるものについてはすべて対応させていただいている。その中で、支援金のような最前線で従事されている医療関係者の方に協力金という形で一定の金額をお渡しするものも含んでいる。これらを活用させていただき、コロナ対策に万全を期していただければと思います。

山根委員：介護の現場では、高齢者で病弱な方や在宅で来られる方もおり、不特定多数の方と接する機会もあることから、熱はないか、県外の方と接触していないかなど声を掛け合いながら地道な努力をして対応している。

ただ、ワクチン接種については医療従事者、高齢者施設の入所者、高齢者施設の職員のような順番になっていて、同じ介護支援専門員でも、個人経営などは接種が遅くなり不安になっている方もいたが、先週末、キャンセル待ちで優先的に介護従事者が接種できるように登録してほしいとお話をいただいた。

また、通所や泊りに行かれる方もいるので、本人だけでなくご家族にも面会ができないなどご迷惑がかかっているとの話も聞いているので、もう少しリモートの設備で協力いただければ助かる施設もあるのかと思います。

## (2) 第1期事業の中間評価の方向性について

—資料4により事務局から説明—

・委員からの補足、意見なし

## 4 その他

- 仲田副会長：今年度の取り組みで、遠隔診療の項目があったが市内病院での状況を教えてほしい。
- 紙谷委員：成羽病院については、私を含めて、内科の先生などドクターは昨年度 WEB 講習を受けており、開始はできる状況ではあるが、モノの整備が難しく、病院にはあっても相手方で用意できないという点が難しくハードルが高い。人の交流ができない現在の状況だと現場に行ってもオンラインの機械の操作を一緒に説明しながら、病院とつなぐことは難しい。また、ワクチン接種などの状況もあり、積極的にオンライン診療を進めるといった状況にはなくストップしているような状況。
- 菅田委員：成羽病院同様に、WEB 講習を受けてはいるが、病院全体としてオンライン診療を積極的に進めていこうという段階にはないが、限られた診療科での検討をこれからしていこうかと思っている。
- 戸田委員：外科、内科あわせて 5～6 名講習を受けている状況にはある。5 月初め頃に外科で一名希望がありオンライン診療を実施していたと思う。特に特別ではなく、お話しして調子聞き、処方をしたという一般的な診療であったと聞いている。病院の受付にオンライン診療を始めたことを掲載しているが、オンラインの希望があるというところではない

### 浜田アドバイザー

- ・長期戦となっているコロナ禍の中で、医療・介護・行政のそれぞれの立場で苦勞されている点に敬意を表します。
- ・冒頭に河村委員から大学での感染事例の報告があったが、各大学でもかなりナーバスになり感染対策を行っているところである。学生さんもかなり努力しており、問題行動があったわけではないと思うが、先生方・当事者は感染してしまったことに対して責任を感じていると思う。
- ・市内でよくない噂話、感染者や医療従事者への差別、感染者のプライバシーを追求することは、まちづくりの観点からの避けなければならないと感じている。
- ・医療計画の中間評価については、100項目についてすべてこなすことではなく、波及効果の高い肝になる中心施策(重点事項)を定めるなど、中間評価で検討事項の再整理を行うことも必要。

## 5 閉会(仲田副会長)

- ・コロナ感染拡大、緊急事態宣言となる中で WEB を使ったこれからの新しい会議の進め方を実感することができた。また、ここ数年間でいろんな医療機関等と一緒に一つの計画について考える機会をえられていることは有意義である。
- ・浜田先生からアドバイスがあったように、全ての項目をまんべんなくではなく、特に重点的に進めることで全体を大きく推進する項目を設定して連携することができればよいと思う。
- ・介護も含めて資源が少なく一つの病院、診療所ですべてを解決することは困難であるので、高梁医師会の皆さんはフレンドシップに富んでいるので、いろんな機関で連携しあつてできないところを助け合うような体制をこれからも続けていければよいと思う。